

一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

2021 年度 事業計画書

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

The logo consists of the letters 'ATP' in a bold, black, sans-serif font. The 'A' is stylized with a diagonal slash through it. The 'T' and 'P' are solid and blocky.

## ＜2021 年度方針＞

本年度はコロナ禍の長期化を視野に、引き続き番組製作会社の発展のため、柔軟な姿勢で各事業に取り組み、安定した財政基盤を維持したいと考えています。苦しい状況が続きますが、かつての様な製作現場に戻れるよう、尽力致します。

放送・配信事業者との協議は、コロナ禍で一時停止していましたが、順次再開します。減少を続ける制作費の適正化に努めるとともに、「働き方改革プロジェクトチーム」がまとめた「コロナ禍におけるテレビ番組製作のために」も各所に周知し、協議を続けています。準キー局においては、番組打ち切りや予算一律削減など苦しい状況が続いています。関西センターでは、協議会で情報交換を行い、放送事業者に対して制作費アップと発注増加を働きかけていきます。

苦悩の一方で、製作会社の新規市場は拡大しています。中でも配信番組製作の伸びが顕著です。既存市場の縮小傾向を打破するチャンスですが、これまでの制作フローと異なるケースもあり、ビジネスとして成立していない依頼もあります。製作会社にとって良好な配信製作とは何か、本年度は新たな調査チームを結成したいと思います。

主要事業は昨年度同様、オンライン開催もしくは会場と併せたハイブリッド開催を前提に計画をしています。WEB 会議サービスや SNS による即時の動画拡散によって、遠隔地からの参加が可能になるなど、新たなメリットも見つかっています。「ATP 賞テレビグランプリ」「ATP 上方番組大賞」「Tokyo Docs」は、各センターの努力によって注目度も年々高まっています。縮小した開催ではなく、バージョンアップの姿勢で取り組みます。「メディア委員会」では、放送事業者との協議内容の情報共有や勉強会を行います。昨年度オンライン開催となった「テレビクリエイターズフェス」は、他業界の動向も注視し、学生に配慮しながら開催したいと思います。重要度の高まっている「経営情報アンケート」は本年度も実施します。ご協力のほど宜しくお願い致します。日本のコンテンツは隣国に確実に差を付けられています。国際力あるエンターテインメントが生まれるよう、関係各所が力を合わせる時が来たと思っています。海外に向けた活動は、昨年度大半が中止となりましたが、会員社が参加できる活動に関しては、新たな情報が入り次第お知らせ致します。

製作取引の適正化に向け、ATP と民放連が共同事務局として運営している「放送コンテンツ適正取引推進協議会」（以降、協議会）の研修会では、最新の「放送コンテンツの製作取引適正化に関するガイドライン」（以降、ガイドライン）の周知を図っていきます。

本年度も製作会社と制作者の適正な権利と環境の向上に努めます。ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟  
理事長 福浦 与一

## 【組織戦略センター活動方針】 センター長 山田治宗 副理事長

本年度もコロナ禍が続き、積極的な活動を制限される中ではありますが、組織戦略センターでは長期的な視野に立って、ATP と会員社の存在を、国内外にアピールするための基盤づくりに力を注いでいきたいと考えています。具体的には、国内外の放送事業者、配信事業者、製作会社などとの新たなネットワークの構築、また会員社の映像データベース作りの検討を進め、製作会社のビジネスチャンスを広げていきたいと思えます。

### 1. 財政基盤の安定・強化、予算の機動的運用

本年度も「ATP 賞グランプリ」「テレビクリエイターズフェス」「Tokyo Docs」などの主要事業を独立採算制で継続し、収支構造の安定化をはかりながら、引き続き、会員社、賛助会員社の新規獲得を目指します。また、単年度収支の黒字が続いたことで、ここ数年積み上げてきた正味財産については、不測の事態に備えるための水準を維持しながら、黒字分を翌年度の支出に組み込むなど、弾力的、機動的な活用を行います。

### 2. 経営情報アンケートの実施

本年度も経営情報アンケートを実施します。昨年度のアンケートでは、新型コロナウイルス感染拡大前の数値として、前年に落ち込んだ売上・利益に回復の兆しが見えましたが、その後のコロナ禍の影響で、大幅な業績悪化が予想されます。昨年度悪化の傾向を見せていた3年離職率や、番組受注の傾向、著作権保有率の変化などを分析し、その結果を元に、関係省庁や放送局に対し、製作会社の現状を伝え、改善を働きかけていきたいと考えています。

### 3. 国内外の制作者との連携、海外展開

組織戦略センターでは、国内外の制作者との連携を深める試みや、制作・流通の海外展開を推進する試みを支援すべく、「調査・研究費」と「Kプロジェクト予算」を計上しています。これは全センター共通、横断的な予算としてキープされているものです。コロナ禍のため、「アジアドラマカンファレンス」は、本年度も開催見送りとなっていますが、新たな情報が入りましたら参加に向けての協議を始めたいと考えています。また、「日韓中テレビ制作者フォーラム」については引き続き開催の可能性を探り、さらに、新たなコンテンツ開発のためのネットワーク作りも進めていければと考えています。

#### 4. 広報について

本年度の記者懇談会は、「ATP 賞」受賞式当日に加え、年複数回開き、ATP が取り組んでいる「働き方改革」や「製作取引適正化」などについて、広く周知すると共に、製作会社の魅力を伝えられるような情報を提供していきたいと考えています。また広報のデジタル化の取り組みとして、SNS を活用した ATP の事業活動の周知を進めてきましたが、並行して、会員社の新たなビジネスチャンスにつながるような映像データベース作りの検討など、ATP のデジタル化をさらに推進していきたいと考えています。

#### 【メディアセンター活動方針】 センター長 中川幸美 理事

##### 1. コロナ禍における番組製作体制の確立

新型コロナウイルス感染症の防止体制をとりながら番組制作を行うことは、いまや必須となり、制作現場への負担は確実に増えています。安全対策をとるための制作日数確保と、それに伴う制作費増への対応、積み上げ方式による見積りなどに関して、加盟各社に共通する事柄として 2021 年 2 月にまとめた「コロナ禍におけるテレビ番組製作のために」を、引き続き各放送事業者に周知し、あるべき体制の確立を促進していきます。また会員各社からの報告が寄せられているように、局担当者による対応の違いについても是正を求めています。

##### 2. 「働き方改革」推進の継続

コロナ禍でのリモートの推進、会議時間の短縮などにより、長時間労働に一定の改善が見られました。ただし、個々の現場や制作ジャンルによっては、逆に労働時間が増えている例も散見されます。コロナ禍により進んだ働き方改革を一過性のものとせず、アフターコロナにも適応した働き方改革が実現できるように、各放送事業者に協力を求めています。働き方改革と人材育成を両立できる経営環境を確保するために、管理費のあり方などについても協議してまいります。

##### 3. 「製作取引の適正化」に向けた活動

2020 年 9 月に改訂されたガイドラインでは、放送事業者と製作会社の取引だけでなく、製作会社間の取引についても適正化を求めています。メディア委員会等を通じて、改訂のポイントに重点を置いて、さらにガイドラインの周知を図っていきます。

総務省主宰の「放送コンテンツの適正な製作取引の推進に関する検証・検討会議と推進協議会」内に設けられた「放送コンテンツ適正製作取引推進ワーキンググループ」では、構成員として引き続き著作権帰属などの諸課題について、製作会社の現状を伝え改善を主張していきます。

#### 4. NHK の衛星波減少への対応

NHK は衛星 3 波のうち 2K 1 波を 2023 年度中に削減し、将来的には衛星 1 波化を視野に検討することを打ち出しています。またスリム化の中で、番組経費の見直しを進めるとしています。こうした動きの中で、外部発注比率の動向に注目し、製作会社への委託がへることのないよう要求していきます。

#### 5. メディア委員会

各放送事業者との協議内容や、制作現場で起きている問題点など、会員社のクローズな集まりとして情報共有を図ります。あわせて新たなビジネスにつながる動向や、製作会社として知っておきたいことなどをテーマに、講師を招いて勉強会も行います。年度内に 3 回程度の開催を予定しています。

#### 6. 製作会社主体のコンテンツ展開推進

製作会社が主体となって、自社コンテンツの海外展開や二次利用を推進する事業として始まった Tokyo Docs は、11 年目を迎えます。10 年間、積み上げてきた知見を、広く会員社と共有する場を作るとともに、ATP として今後も継続できる運営体制を、NPO 法人 Tokyo Docs と協力して検討してまいります。

#### 7. 「ATP の主張」

著作権や適正取引についての ATP の考え方を、あらためて会員社や放送事業者の皆様にも周知、協力を求めていくために、2016 年に「ATP の主張」を策定しました。策定から 5 年を経て、製作会社をとりまく環境も刻々と変化し続けていますので、内容を再検討し、必要に応じて改訂作業に取り掛かります。

#### **【事業センター活動方針】   センター長   相川弘隆 副理事長**

事業センターでは 5 名の理事に加え、執行理事 3 名が事務局と力を合わせ、企画・運営をしております。当センターでは『ATP 賞テレビグランプリ』並びにスタッフ発掘のための『テレビクリエイターズフェス』を 2 大事業と捉え少

数精鋭で担当しています。より多くの会員社の皆さんのニーズに応えるべく昨年度を上回る結果を目指して活動をして参ります。以下、各担当事業のご説明を申し上げます。

### 1. 『第 37 回 ATP 賞テレビグランプリ』

ATP 最大のイベントです。会員各社が精魂を込めた作品の中からドキュメンタリー・ドラマ・情報・バラエティーのカテゴリーの中からグランプリを目指します。またこの世界で活動をし始めた若い人たちが最優秀新人賞の栄冠をかけて競い合います。正に一年間の成績表のような各賞の発表は見どころ満載のイベントです。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から人数を制限したコンパクトな形で開催しました。しかしながら例年と変わらず会場の雰囲気は熱く、その様子は NHK の放映やネット配信で皆さまにお伝え出来たと思っています。本年度も既に開催に向けて作品募集を終え、審査に入っていきます。受賞式についてどのような形での開催か先が読めませんが、ATP の存在を内外に知らしめる最大のコンテンツとして発信して参ります。

### 2. 『テレビクリエイターズフェス 2023 東京』

毎春に行っています「テレビクリエイターズフェス」は加盟社にとって生命線であるクリエイター確保の場としてこれまで人気を博して参りました。現在「働き方改革」あるいは新型コロナの影響で一気に買い手市場の様相ですが業界を目指す学生と加盟社を結びつける重要なコンテンツとなっております。しかしながら昨年度は、新型コロナ感染拡大防止のため Web 開催としました。本年度も全く不透明な状況ではありますが、このフェスが業界の活性化につながる重要なイベントであることは間違いありません。コロナに負けないように、そして学生の気持ちを最大限に考慮して安心して参加できる安全なイベントとして開催する予定です。

### 3. 『育成とセミナー』

出会いの場を提供するのがテレビクリエイターズフェスならば人材の育成を目的としているのが「ATP 合同新人研修セミナー」です。配属された新人に番組製作にかかわる全般のこと、コンプライアンス、挨拶やマナーなどの社会人としての基礎講座を交えた二日間のセミナーです。昨年度から、新型コロナウイルスの影響により集団での講義は密になることを避けるためにウェブでの開

催ですが、状況を見極めながら加盟社の新人教育のお手伝いをさせていただきます。

#### 4. 『インターンシップ』

これまで長い夏休みを利用して会員社に配属、現場を直に見てもらいながら業界を知ってもらう制度して行ってまいりました。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大防止を鑑み昨夏は取りやめとしました。変わって数年来、当センターで継続して行っているテレビクリエイターズインターンシップ「半日インターンシップ」です。半日付き合ってもらえれば業界がわかる、をキャッチに夏から冬にかけて数十回開催していますが、今年度もウェブにて開催を致します。日本中の学生に向けてのインターンシップとなっております。春のクリエイターズフェスへの太い導線となっていることはいまでもありません。

#### 5. 『第 10 回若手映画プロジェクト』

会員各社の若手クリエイターが企画する映画製作の支援を目的とします。これまで 4 作品が上映されております。昨年は 1 本の作品がエントリーし、採択され、上映を迎えようとしています。ご承知の通り ATP からは 100 万円の補助金を出しています。映画の公開事情はかなり多様化し、映画公開のチャンスは増加しているように思います。これまでに増して若手クリエイターの情熱を支援して参ります。

#### 【関西センター活動方針】 長谷川豊 副理事長 センター長 森田道明 理事

「コロナ禍」の終息が見通せぬ中、本年度後半からは緩やかでは有るとおもわれるが、関西の放送業界は、昨年下半年からの番組打ち切りや予算一律削減など、かつてない嵐が吹き荒れました。体力的にも限界が近づき、多くの製作会社が持ち堪えられるのか、大きな難題が待ち受ける本年度に ATP 関西センターの役割・使命が問われ、そのことを見つめ直すとともに実効性のある施策を創造し、実施できるよう模索を続けてまいります。

#### 1. 第 9 回 ATP 上方番組大賞、関西新春交流会の実施

昨年度はコロナ禍に有ったにも関わらず多くのエントリーを得、関西センター加盟社の強い期待を実感できるアワードになりました。本年度もより一層、プロモーション活動に力を入れ、関西の制作者のモチベーションならびに、人

材の確保に寄与できるよう実施してまいります。

## 2. テレビクリエイターズフェス 2023 大阪

学生のエントリーについては集客を第一の目的とし、マイナビとの共催を含め、他の媒体を併用、ATP 単独セミナーの開催、関連団体の就活セミナーへの参加等により学生への周知の場を広げてまいります。

## 3. 関西協議会の開催

コロナ禍、経営そして人材育成などの問題点。放送局との懸案事項など関西加盟社の情報交換、情報共有の場とするとともに第9回 ATP 上方番組大賞並びにテレビクリエイターズフェスの運営について、ご意見やアイデアなどを関西加盟社の皆様より広くお聞きする場と致します。

## 4. 在阪放送局との協議

昨年度はコロナ禍の影響もあり在阪局との協議も儘ならず目に見えた進展は得られませんでした。本年度は ATP が放送局に提案した「コロナ対策」「働き方のルール」は当然のことながら、予算、放送枠とも縮小傾向にある中 将来を担う人材育成の為にも番組枠、発注枠の創造を放送局に対して積極的に働きかけてまいります。

以上